

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

◆ カキまつり大好評

佐呂間漁協、湧別漁協主催による「カキまつり」がそれぞれ開催され、多くの来場者でにぎわいました。佐呂間会場では「1トンのカキを食べつくせ！」と題して、蒸しがきの食べ放題が500円で実施され、来場者はサロマ湖の冬の味覚を思う存分味わっていました。



11月18日(日)

佐呂間町道の駅サロマ湖



11月23日(祝)

湧別町湧別漁協

また、11月11日には北見市オホーツクビアファクトリーで3漁協青年部共催による「秋のサロマ湖まつり」が開催され、各漁協青年部員自らが「カキの酒蒸し」「焼きガキ」「焼きホタテ」を調理して提供しました。当日は秋晴れの温かい天候にも恵まれ、多くの市民や周辺の町からも大勢が来場し、各浜から直送された新鮮なカキ・ホタテなどを堪能いたしました。



◆ 物産まつり大盛況



年末恒例イベントの「ところ物産まつり」が12月9日、北見市常呂町多目的センターで開催され、常呂漁協も出店しました。残念ながら時化により活ホタテの販売ができませんでしたが、山漬けフィーレ、ホッケの開き、乾貝柱を販売しました。

会場内は品物を買って抱えた人でにぎわい大盛況となりました。

◆ 初競りで今年の豊漁を祈願

平成31年の初競りが1月8日に湧別漁協・常呂漁協・佐呂間漁協のそれぞれの漁協において



関係者が出席のもと行われました。湧別漁協では、午後1時30分から漁協、町をはじめ関係者80名が出席し、今年一年の豊漁と安全操業を願ったあと、最初の競りが行われました。

競りでは、むきガキ、カレイが出荷され、仲買人らの威勢の良いかけ声が場内に響き渡りました。

◆ 「龍宮かき」で販路拡大を目指す

湧別漁協では、2年殻付きの小ぶりのカキを「龍宮かき」と名付け、都市部の飲食店に売り込むためのブランド化に取り組んでいます。昨年「龍宮カキ」の商標登録を申請し、札幌のイタリアン居酒屋で先行し提供するなど、本格的なブランド展開を行っています。



また、12月1日～2日に札幌市の商業施設マルヤマクラスで実施した「龍宮カキ」の販売促進イベントでは、2日間で200箱が完売となりました。

サロマ湖の「龍宮かき」が北海道を代表するカキブランドとして定着することを期待しています。



◆ 「ホッカイシマエビ」今年も禁漁

サロマ湖のホッカイシマエビ漁が今年も禁漁することが決まりました。

資源量調査の結果を踏まえ3漁協が合意したもので、来年の漁再開を目指すこととなりました。

操業の安全と豊漁を祈ります！

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会

2019.1.22

編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局広報担当

〒093-0502 佐呂間町永代町3番地の1

佐呂間町経済課水産係

T e l 01587-2-1200 ・ F a x 01587-2-1131

M a i l kankou@town.saroma.hokkaido.jp



ももちゃん